

ボロブドゥールの仏教を考える (ver. 1.2)

1. 初期仏教

- ・ブッダ (buddha, 仏陀): 悟った人
- ・ムニ (muni, 牟尼): 聖者
- ・アラカン (arhat, 阿羅漢、羅漢): 尊者
- ・ボーディサットヴァ (bodhisattva, 菩薩): 悟りを求める存在 (人)
- ・シッダールタ: カピラヴァストウにあった王国の王子。ゴータマ氏 (うじ)。シャーキヤ (釈迦) 族。
「ゴータマ・シッダールタ」「釈迦牟尼」「釈尊」
- ・生誕⇒結婚⇒出家⇒修行⇒成道⇒布教⇒入滅
- ・在家⇒出家、悟り⇒教え (智慧と慈悲、自利利他)
- ・三宝: 仏 (ブッダ)、法 (ダルマ)、僧 (サンガ)
 - ・仏: 生身、法身
 - ・法: 経・律・論 (三論)
 - ・三法印: 諸行無常、諸法無我、涅槃寂靜
 - ・出家者共同体
- ・言語: 民衆語から文章語へ
 - ・マガダ語⇒サンスクリット語 (シッダールタ) ⇒漢訳、チベット語訳
 - ・マガダ語⇒パーリ語 (シッダッタ) (プラークリット)

2. 部派仏教

- ・第一次分裂 (根本分裂)
ブッダ入滅後100年頃、アショーカ王治世、「十事の非法」をめぐる対立⇒上座部と大衆部
- ・第二次分裂
第一次分裂から100年～300年後の間に、大衆部は9部派、上座部は11部、合計20部派。
- ・上座部からは説一切有部が分派し、有力となる。
- ・ヴァスバンドウ (Vasubandhu, 世親、4-5世紀)
『阿毘達磨俱舍論』⇒俱舍宗
『唯識三十頌』⇒法相宗
南都六宗: 三論、成実、法相、俱舍、華嚴、律
- ・上座部 (Theravāda)
保守正統、パーリ語を採用、スリランカが拠点⇒12世紀以降、東南アジアに広がる。

年代	事項
前5世紀頃	ブッダ活躍 (~前383年)
前283年頃	この頃、第2回仏典結集。この頃、根本分裂。
前268年頃	マウリヤ朝のアショーカ王即位。仏教を普及。
前100年頃	部派分裂終わる。大乘仏教運動始まる。
前100年頃	スリランカにアバヤギリヴィハーラ建立
1世紀	初期大乘経典成立 (~250年頃)
67年	後漢に仏教伝来、白馬寺建立。
320年	グプタ朝、成立。サンスクリット語を公用語とする。
415年頃	ブッダゴース、スリランカに滞在し『清浄道論』をパーリ語で執筆。
431年	求那跋摩、スリランカ、ジャワを経て宋に大乘戒を伝える。
435年	求那跋陀羅、スリランカを経て宋に至り大小乗諸経を訳す。
4~5世紀	世親、活躍。
538年	百濟から日本に仏教伝。
645年	玄奘、唐に帰国
695年	義浄、唐に帰国
7世紀後半	金剛頂経、南インドで基本形が成立。
718年	不空、ジャワで金剛智と出会う。
736年	インド僧菩提僊那、林邑僧仏哲、来日。
746年	不空、長安に再来、密教経典を多数訳出。不空⇒恵果⇒空海
752年	東大寺大仏、開眼供養。
790年頃	ボロブドゥールの建立始まる。仏伝・ジャータカ・華嚴経・金剛頂経に依拠。
794年	チベットでサムイェーの宗論。
806年	空海、日本に帰国。

3. 大乘仏教 (Mahāyāna)

- ・前1世紀～⇒大乘仏教運動: 多仏、多菩薩⇒部派仏教 (とくに有部) を「小乗仏教 (Hinayana)」と批判
- ・1世紀～⇒新しい経典の出現: 『般若経』、『華嚴経』、『法華経』、『無量寿経』 (阿弥陀仏) など
- ・7世紀後半～⇒密教経典の出現『金剛頂経』 (大日如来の説教) など
- ・玄奘の記録 (7世紀): インドでは大乘、部派仏教、バラモン教、ヒンドゥー教が併存
- ・義浄の記録 (7世紀): 東南アジアでは根本説一切有部、正量部、大衆部、上座部、大乘 (スマトラ) が実践
- ・「8世紀の仏教世界»: インド・東南アジア・東アジア
サンスクリット語 (漢訳、蔵訳): 大乘 (+ 密教) + 部派仏教 (有部、正量部)、パーリ語: 部派仏教 (上座部)

4. 参考文献

金岡秀友 (編). 1977. 『部派仏教<シンポジウム仏教>』校正出版社.
 金岡秀友・柳川啓一 (監修). 1989. 『仏教文化事典』校正出版社.
 奈良康明. 1979. 『仏教史 I インド・東南アジア』(世界宗教史叢書7) 山川出版社.
 奈良康明ほか (編). 2010. 『新アジア仏教史』全15巻 (とくに第4巻・東南アジア) 佼成出版社.